

佐渡・八幡を愛し、貢献できる子どもの育成

～学校運営協議会の設立を通じたコミュニティとスクールの活性化に向けて～

佐渡市立八幡小学校 校長 山崎 勝之

1 はじめに

当校は、佐渡島の真野湾に面した児童数62名の小規模校である。学区には自治会が1つしかないため、各地域団体と密接な関係にあり、運動会や文化祭などの共催が慣例となっている。学校が行う教育活動に対して、協力を惜しまない地区である。

学区には、他の地区から移り住んでくる方が一定数存在する。このような方の中には、地域団体との関係が希薄な方が少なくない。そのような方がPTA会長や子供育成会長などの役職に就く場合、地域団体の思いや願いを受け止めていなかったり、事業を進めるための地域団体との協力体制を築けなかったりする。

また、地域団体は学校や子どもを中核とした活動により地区の活性化を図ろうと考えているが、学校は「地域団体主催の行事だから案内の配布だけすればよい」等、学校の教育活動との区別をしようとする。PTAや育成会は、保護者負担の軽減のために事業の削減や省力化を進めようとしてきた。このような流れは、子どもたちを育むコミュニティと学校の在り方として好ましくない。

上記のような課題がある中、佐渡市教育委員会からコミュニティ・スクール推進モデル校の指定を受けた。従前の学校関係者評価委員会の名称を学校運営協議会に変更しただけでは、本来求められるコミュニティ・スクールの目的は達成されない。そこで、学校関係者評価委員に加えて、各地域団体長に学校運営協議会委員への就任を依頼した。それにより、学校運営協議会として、計18の事業を相互の協力体制で充実させることを目指した。さらに、その内の6件は、新規事業として企画し、コミュニティ・スクール1年目として、充実した子どもたちのための活動が実施された。本稿では、学校運営協議会設置の前後計2年間の取組を振り返り、小規模校においてコミュニティ・スクールを活性化させるための要件を明らかにすることを目的とする。

2 学校運営協議会の組織と各団体の概要

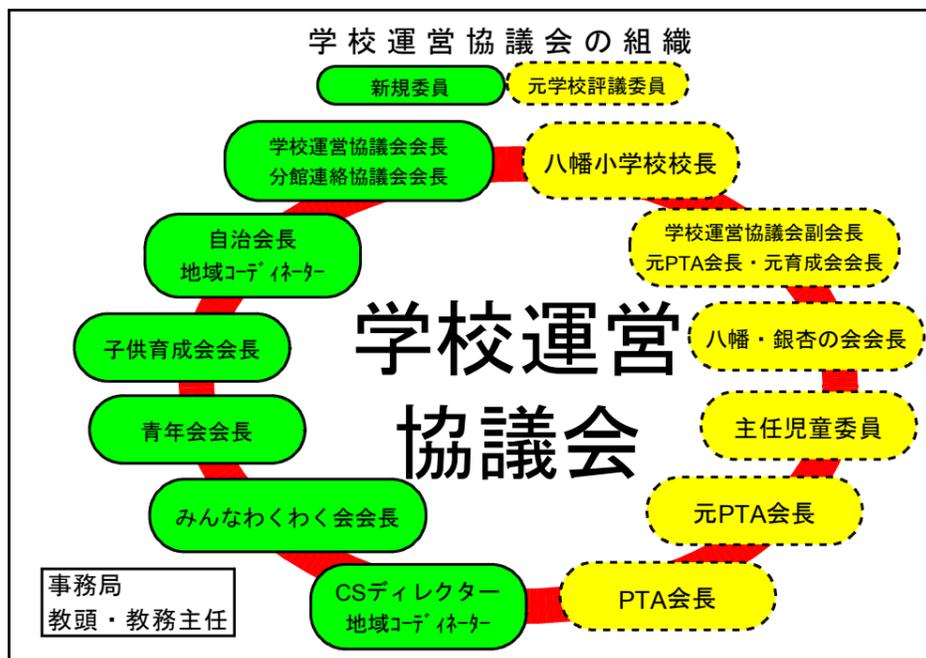
学校運営協議会の組織は以下の表のとおりである。

当校の教育活動にかねてから関わりの深い各団体の長や学校関係者評価委員を学



学校運営協議会の様子

校運営協議会の委員として委嘱し、現在12名（平成30年度）が参加する組織となっている。



八幡地区分館連絡協議会…7つの分館があり、八幡地区文化祭や市民運動会、佐和田地区公民館事業への協力や活動支援を行っている。

八幡・銀杏の会…自主防災、防犯、海岸清掃、公園管理、野球大会開催など活動は多岐にわたる。

みんなわくわく会…主に保護者による読み聞かせボランティア団体。学校では月2回程度、読み聞かせを行っている。

八幡地区子供育成会…佐渡市子ども会連絡協議会の所属団体で、会費を集める任意参加。夏の宿泊体験や八幡祭りの子供御輿等を行っている。

八幡青年会…会員は39歳以下。八幡祭で豆まき（鬼太鼓）を演じる。八幡夏祭りや盆踊り大会を運営したり、分館行事に協力したりしている。

八幡地区自治会…八幡地区集落センターの運営を中心に、分館長や嘱託員等と連携し、行事の企画や共催をしている。

3 平成29年度の取組

(1) 地域団体による創立記念事業の実施

創立140周年を記念して、各地域団体からも記念事業を実施していただくことになった。例えば、地区市民運動会では、



「八小140」の人文字

地域住民も参加してドローンによる空中撮影をしていただいた。また、記念式典・祝賀会の夜には、青年会主催の記念カラオケ大会が開催された。

学校は、記念事業に協力していただく各地域団体長から寄付金を募って「勝利の旗」を作成し、地域団体長がそれを子どもに授与するなど、地域団体長が子どもと関わる場面を増やしていった。



授与する「勝利の旗」

(2) 地域学習資料集「わたしたちの八幡」の刊行

地域住民からの寄付金をもとに、地域学習資料集を刊行した。八幡地区の歴史、文化、自然、産業に加えて、各地域団体の活動紹介のページを作った。そこでは、子どもたちのための活動だけでなく、地区のための活動も紹介し、各地域団体長がどんな地域貢献への思いを持っているのかを紹介するページ構成にした。この資料集を通して、子どもは地区のために働く各地域団体の活動の価値に気づき、憧れの気持ちを持ち始めている。



地域学習資料集



育成会のページ

(3) 学校運営協議会準備会に関して

準備会開催に向けて、各地域団体長に学校運営協議会制度の趣旨や目標、活動等について説明した。準備会は、新年度に行われる各団体の総会において、委員就任や活動連携について承認していただくことを目指した。準備会では、各事業において、学校と保護者が子どもの参加を一層促すこと、各地域団体との協力体制を一層充実させることを確認した。各団体長からは、「必要なときには協力を求められる学校運営協議会の存在は、とても心強い。」といった声が出された。

4 平成30年度の取組

(1) 学校運営協議会実施時期及び議題一覧

以下の日程で計7回の協議会をもった

回	実施時期及び議題
1	平成30年4月25日（水） 議題：子ども110番の家、Tシャツ作成、夏休み宿題教室等
2	平成30年5月16日（水） 議題：グランドデザインの検討、ながら守り隊結成等
3	平成30年7月5日（木） 議題：育成会キャンプ、相撲練習会、ニュースポーツ大会等
4	平成30年8月23日（木） 議題：学校評価検討、各学年の2学期の地域学習
5	平成30年10月18日（木） 議題：八幡キャリア教育フォーラム、通学路合同点検
6	平成31年1月21日（月）【予定】 議題：学校評価検討、次年度の地域学習
7	平成31年3月5日（火）【予定】 議題：反省慰労会（PTA懇親会と兼ねて）

第1回の協議会では、本年度の中で、各団体が考える事業と構想について説明を行い、意見を交換した。第2回以降は、各団体の事業を行う時期に合わせて、より具体的に活動を説明していただき、協力体制、分担の確認を行った。

(2) 協力体制で臨む連携事業

各事業と参加児童数は下表のとおりである。

月	日	学校運営協議会連携事業：団体名
5	27	地区市民運動会：分館 ※37人
7	1	八幡海岸清掃：銀杏の会 ※36人
	14・15	潮津の里キャンプ：育成会 ※49人
8	20~24	新規 夏休み宿題教室：わくわく会 のべ131人
9	14	八幡宮子供夜相撲：育成会 ※58人
	15	樽御輿：育成会 ※54人 豆まき(鬼太鼓)演舞と解説：青年会
10	14	地区文化祭：分館 ※59人
11	11	チューリップ大作戦・芋煮会：銀杏の会 八幡キャリア教育フォーラム：学校 ※59人
	25	ハッピーデーさわた：分館 ※34人
12	27	新規 冬休み書初め教室：わくわく会 ※25人
1	12	もちつき大会：PTA 59人【予定】
通年		朝の読み聞かせ：わくわく会
		新規 八幡スポーツクラブ（YSC）：学校
		新規 ながら守り隊結成：学校
		新規 子ども110番の家募集：学校
		新規 通学路合同点検：学校

(3) 地域住民とのかかわりを増やす新規事業

① 夏休み宿題教室

みんなわくわく会が主催し、全校児童を対象にした希望参加の形態で、夏季休業最終週（5日間）に開催



夏休み宿題教室

した。夏休み明けに心配される不登校と自殺の未然防止をねらいにした。会場は八幡地区公民館である。バルーンアートやスライム作りなど子どもの興味・関心が高い活動や「警察官による防犯Q&A」、「ザンビアにおける給食普及活動」など、魅力的な講座を数多く実施した。のべ131人もの子どもたちが参加し、多くの友達と関わりながら学習したり、仲良く遊んだりしていた。それにより、夏休み明けに危惧された不登校等を防ぐことができた。また、ボランティアスタッフとして応募してくださった中学生から79歳までの50名が、各日16～26人参加し、のべ95人が子どもと関わることもできた。ボランティアスタッフからは「子どもたちから元気をもたらした」という声があった。冬休みには、書き初め教室を実施する予定である。

次年度は、新規に「放課後子ども教室」として事業化し、地域の方々に学ぶ活動を一層充実させる予定である。

② 八幡スポーツクラブ

健康の保持、増進と社会性の育成のためには、地域のスポーツ大会に参加することは大切である。休み時間や放課後の時間を使い、地域住民とのスポーツ交流



ボール投げ教室

による運動習慣の形成をねらいとして実施した。活動内容、参加児童数は以下の表のとおりである。

月	活動内容 [実施回数]	参加児童数
5	ボール投げ教室 [3回]	のべ127人
6	テニス教室 [10回]	のべ350人
8	ちびっ子水泳教室 [5回]	のべ70人
10	ボール投げ教室 [3回]	のべ72人
11	ニュースポーツ教室 [15回]	のべ405人
11	おおなわ教室 [6回]	のべ156人
12	ソフトバレー教室 [20回]	のべ340人

ボール投げやソフトバレーボールは、银杏の会から紹介していただいた地区チームの方から指導していただいた。他にもテニス教室はテニス協



放課後テニス教室

会、ニュースポーツ教室ではスポーツ推進員の方、おおなわ教室では保護者の協力を得るなど、日頃からスポーツに親しむ多くの大人とかわること

ができた。さらに、以下で述べるニュースポーツ大会やおおなわ大会、ソフトバレーボール大会に出場するなど、地域のスポーツ大会に参加することで生涯スポーツに取り組もうとする意識の向上につながった。また、八幡スポーツクラブへの参加を契機にして、スポーツ少年団に入団する子どもが増えてきたことも成果である。

さらに、CSディレクターが活動補助や地域人材、団体への依頼や連絡業務を担当することで、継続的に事業が引き継ぐことができる体制を築くことができた。

(4) 参加者数の増加により活性化した地域事業

① ハッピーデイさわた（スポーツ大会）

佐和田地区公民館の事業として、毎年、様々なイベントを合わせて実施されていたが、子どもの参加者数が伸び悩んでいた。学校運営協議会において、分館から「小学生の参加を増やしたい」という要望が出された。ハッピーデイさわたのイベントの1つに、ボッチャなどのパラリンピック種目を取り入れたジュニアニュースポーツフェスティバルが行われるという情報を得たので、全校朝会でパラリンピック教育教材を使用し、ボッチャ等を紹介した。文化祭の午後には校内ニュースポーツ大会を実施し、全校児童がボッチャ等を楽しんだ。さらに、八幡スポーツクラブとして、ハッピーデイさわたに参加することにし、希望者を募り、昼休みの時間を使ってニュースポーツ教室を開催した。



ボッチャの対戦中

ハッピーデイさわた当日は、八幡スポーツクラブから、7チームのべ30人が出場し、参加者数の増加に貢献するだけでなく、優勝、準優勝するなど、大会を大いに盛り上げた。

② 八幡宮奉納子供夜相撲

八幡宮の前夜祭として行われる奉納相撲大会である。育成会が運営を行っている。年々参加者数が少なくなるにともなうて、保護者や地域の方々が応援に訪れる数も少なくなってきた。学校では、学習指導要領でも取り上げられ



八幡宮奉納夜相撲

ている相撲を学ぶ機会を大切にするため、相撲経験のある地域の方から体育学習の中で指導をいただき、正しい立ち合いの仕方や相手を思いやる心の大切さを教えていただいた。参加意欲も高まり、相撲大会への参加者数、観客数も増えた。

(5) 地域事業の改善策を提案する場の新設

学校運営協議会の場で、団体長が意見交換し、協力体制を築くことで、新事業が実施されたり、既存の事業への参加者が増えたりするなどの成果が表れた。さらに、学校運営協議会の場を超えて、子ども自身が各事業に対して、感想や意見を述べる場を設けることで、PDCAサイクルが一層機能し、子どものための充実した事業が継続されると考えた。例年11月に実施している「※八幡キャリア教育フォーラム」を、その場として活用した。



育成会長とのグループ協議

※ 球根2万個を植える「チューリップ大作戦」と「八幡芋煮会」の午後に実施する学校行事である。地域団体長等の講演による全体会と地域人材を囲んで仕事と地域貢献の両立について話合うグループ協議による分科会の2部構成で実施。

グループ協議は、全学年が参加するため、各グループのリーダーである6年生が高い意識をもって分科会に臨む必要がある。そこで、6学年担任と相談し、国語科「未来がよりよくあるために」の学習と関連させることにした。この学習は、立場の異なる方の考えを引用し、改善策等を伝える意見文を書く学習である。本番のグループ協議では、団体長に質問しながら、サービスを提供してもらう子どもの立場だけでなく、運営側の思いや願い、課題について知ることができた。その中で出された感想や意見、改善策は、教員が模造紙にまとめ、全体会で報告した。その模造紙は、今後行われる各地域団体の総会等で紹介され、各事業に子どもの声が反映されていくことになる。

十一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	時間	六年国語指導計画「未来のために八幡のために私たちにできること」
互いの意見文を読み合い、工夫を伝え合う	構成表をもとに意見文を書き、推敲する。	文章構成表にまとめる。	説得力をもたせる意見文に必要な情報を整理する。	「八幡キャリア教育フォーラム」で情報収集	自分の意見文に説得力を持たせるために、異なる立場の者がどんな意見をもっているか考える。	りさせる	意見文に必要な情報を整理し、自分の意見をはっきりさせる	立場の意見を引用し、改善策を述べるを読み取る。	教師自作意見文から、説得力をもたせる工夫(異なる)	八幡の未来に残したいものについて話し合う。	意見文を書いて、もちつき大会で伝えよう

グループ協議後に完成させた意見文には、自分のできることをして、「PTAもちつき大会のポスターを地区に貼る」「自分も進んで参加する」「大人の手伝いをする」など、各事業に主体的に関わり、地域団体に貢献しようとする記述が見られた。



6年が意見文を発信

5 成果と課題

(1) 成果

子どもが各団体主催の様々な事業に参加し、多くの体験を通してふるさとを愛する気持ちを持ち、参加することで貢献していくサイクルが生まれてきた。各事業の参加者数が増加したり、新規事業が成功したりするには、以下の要件が大切であった。

1つ目は、各事業の企画・推進において、学校だけでは十分に成果を得にくい、夏休み明けの自殺・不登校の未然予防、防犯、防災、運動習慣形成等の課題に特化して取り組んだことである。それにより、協力関係を構築しようとする意識が高まった。

2つ目は、学校運営協議会の場で十分な議論が行われたことである。共通する課題は何か、その解決に向けて協力するべきことは何かについて腹を割って話し合える関係づくりが基盤としてあった。

3つ目は、学校のカリキュラム・マネジメントである。学校運営協議会を契機にして、教科や行事の改善を進めようとする意識が大切である。

4つ目は、子どもが学校運営協議会の事業に対しての意見を言う場を設定することである。主体者意識が育まれ、地域に貢献できる人材が育成される。

(2) 課題

学校運営協議会委員のうち団体長は、毎年、代替わりする。教職員の入れ替わりも多い。初年度の熱を伝える難しさがある。地区と学校を活性化する目的と意義を伝える仕組みを整えることは、大きな課題である。

家庭地域連携事業、放課後子ども教室事業等を一層活用し、佐渡市や八幡地区への情報提供を充実させながら、学校運営協議会の取組を価値ある事業に成長させることを目指していきたい。